

地対協コーナー

今号は、6月に開催した委員会の報告をお届けします。

県内の各市町や圏域地対協においては、在宅医療・介護連携の推進に取り組まれているところ。本協議会としても、広域的な観点から市町や専門職への在宅医療に関する支援策等について検討するため、「在宅医療・介護連携推進専門委員会実務者会議」を設置しており、県民に対して在宅医療への理解と関心を深め、地域で身近な医療の選択肢として定着させていくことを通じてその気運醸成を図ることを目的に、令和3年度より「在宅医療に関する啓発ツール」の制作に取り組んでおります。

これまでに、ドラマ形式の在宅医療啓発動画や、在宅医療を支える各専門職にスポットを当てた動画を制作しており、在宅医療の総合案内サイト「ほっとふるライフ」(<https://hotfull.pref.hiroshimalg.jp/>)からご覧いただくことができます。

皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の各委員会活動などは、地対協ホームページ(<https://www.citaikyo.jp/>)へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○第1回救急医療特別委員会

日 時：令和7年6月5日(木)19時00分

場 所：広島県医師会館 3階 301会議室／

Web

委員長：志馬 伸朗

「広島県救急搬送支援システム」次期実証実験の実施、令和6年救命救急センターの充実段階評価、救急車両の適正利用に係る広報(＃7119、＃8000)について報告し、意見交換を行った。

報告事項

1 「広島県救急搬送支援システム」次期実証実験の実施について

令和5年10月より開始したTXP Medical株式会社が提供するシステムを用いた実証実験は、令和7年9月をもって終了し、令和7年10月からは、新たな実証実験(以下「次期実証実験」という)を実施する。

次期実証実験は、国が募集する「新しい地方経済・生活環境創生交付金デジタル実装型TYPES」を用いて行うこととしており、全国で唯一、広島県が採択され、国と連携し事業を実施することが正式に決定した。

また、次期実証実験における事業者は、県の入札手続き(公募型プロポーザル方式)に基づき、広島県が組織する選定委員会での審査を経て、6月30日に決定する予定である。

次期実証実験に関する事項については、本委員会の下に設置しているワーキンググループ

(以下「WG」という)において議論し、本委員会にて報告等を行う。なお、今年度のWGには委員として、厚生労働省・消防庁も参画する。

今年度第2回WGは7月上旬に開催することとしており、次期実証実験の運用フローを整理し、システムの開発状況等の進捗を9月に開催予定の本委員会にて報告予定である。

志馬委員長からは、国の事業として認められたことは非常に大きな意味があり、全国の先駆けとなるよう進めていただきたいとの発言があった。

2 令和6年救命救急センターの充実段階評価について

本評価は、厚生労働省が平成11年から毎年実施しており、既存の救命救急センターの機能強化を目的としている。診療体制や患者受入実績等をもとに点数化し、S・A・B・Cの4段階で評価され、評価結果は、救命救急センター運営事業費の補助金額や診療報酬(救命救急入院加算など)に反映される重要な指標となっている。

令和6年における評価については、広島大学病院が昨年に続きS評価、県立広島病院、広島市民病院などの主要救命救急センターもA評価を維持する結果となった。

志馬委員長からは、広島大学病院はS評価を維持したが、評価点数は下がり、その要因の1つには、医師の働き方改革が影響していることが言及された。

また、委員からは、救急医におけるマンパワー不足の問題が提起され、広島県に救急医の

絶対数が少ないことから、行政として救急医や初療から入院までを診る総合内科医の確保に向けた支援策を検討し、救急医の負担軽減、救命救急センター全体のレベルアップに繋げてほしい旨の要望があった。

3 救急車両の適正利用に係る広報（＃7119、＃8000）について

救急搬送件数は依然として高止まりしており、それに伴い救急搬送困難事案も増加している。広島市消防局管内における令和6年の救急出動件数は、約7万2,000件、搬送困難事案件数は、約3,900件に上り、前年度より増加する結果となった。また、搬送患者の約4割は軽症で、不要不急の救急搬送が医療資源のひっ迫に影響を与えている。

こうした状況を受け、救急車の適正利用を促すこと、また、救急相談センター＃7119および子ども医療電話相談＃8000の認知度向上を目的に、市町・消防機関等で構成する「救急車両の適正利用広報促進WG」を設置し、情報交換、統一的な広報手段等について検討している。

今後は、各機関との連携強化を図るとともに、「救急の日」および「救急医療週間」に向けて、HPやSNS、デジタルサイネージ等多彩なメディアを用いた更なる広報を行っていく。

○在宅医療・介護連携推進専門委員会 第1回実務者会議

日 時：令和7年6月20日(金)19時30分

場 所：広島県医師会館 5階 501会議室／Web

在宅医療に関する課題解決に向けて作成している在宅医療啓発ツールについて、これまでの取り組み状況を報告後、今年度の啓発ツールの制作や広報等について検討を行った。

協議事項

1 在宅医療啓発ツール制作について

広島県地域共生社会推進課より、本会議の設置経緯やこれまでの取り組みについて説明後、ツール制作の受託機関であるホームテレビ映像株式会社より、昨年度までに制作した啓発ツールの紹介および今年度の事業提案があった。

今年度は、「在宅医療を支える在宅医師」をテーマにすることが提案されたが、委員から多岐にわたる意見が提出されたため、現案は一旦保留とし、本会議での意見を踏まえ、コンセプトを明確化し、どの視点を中心に据えるか、広島県および制作会社にて再検討することとした。

県地对協からの提供資料について

県地对協では以下の県内共通クリティカルパス、パンフレット、マニュアル等を作成しています。ご入り用の際は下記事務局までご連絡ください。

【地域連携クリティカルパス】

- 乳がん患者さんのための「わたしの手帳Ver.7」
- 肺がん術後患者用「わたしの手帳Ver.3」
- 心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス
- 心筋梗塞・心不全手帳の使い方 ご本人・ご家族用
- 前立腺がん 手帳 地域連携パス
- 甲状腺がん 手帳 地域連携パス
- 大腸がん 手帳 地域連携パス
- 大腸がん内視鏡治療後患者用手帳
- 胃がん 手帳 地域連携パス
- 胃がん内視鏡治療後患者用手帳

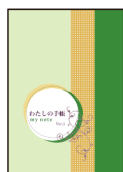
【パンフレット・マニュアル】

- ACPの手引き 「豊かな人生とともに…」

【事務局】 広島県医師会地域医療課 電話：082-568-1511 Eメール：citaikyo@hiroshima.med.or.jp



乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.7」



肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.3」



心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス



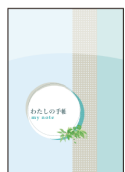
心筋梗塞・心不全手帳の使い方 ご本人・ご家族用



前立腺がん 手帳 地域連携パス



甲状腺がん 手帳 地域連携パス



大腸がん 手帳 地域連携パス



大腸がん 内視鏡治療後患者用手帳



胃がん 手帳 地域連携パス



胃がん 内視鏡治療後患者用手帳



ACPの手引き 豊かな人生とともに

など

※一部ホームページにて公開中

広島県 地对協 検索